

ここにいろよ

内村 まゆ

私は今日、宇宙飛行士になる。

史上最年少、十四歳での旅立ちになる。

「デューエル」が誕生してから二〇〇年たつ。

「デューエル」とは子供が生まれてくる際に遺伝子操作をし、普通の人間に比べずば抜けた才能を持って生まれてくる人間のことである。今までではテレビやマコかの空想ごとだった

が二二六五年。私の祖父が中心人材となり開発した。

「デューエル」の第一成功体が自分の息子。つまり、私の父だ。

父の幼い頃の思い出は、四方を鉄の棒で囲われた小さな家のみ。

そのため、父は祖父のことを嫌っていた。もしかしたら恨んでもいたかもしれない。

でも、祖父のおかげで人類は何度も危機を救われている。難病や自然災害などの、と

くに人類が滅びていてもおかしくない状況を
いくつも乗り越えられた。

一世紀前は不可能とされていた「ハ惑星移住
計画」も「デュエハ」により無事に進行さ
れている。

不可能を可能にした瞬間を誰もが見た。

私はロケットに乗った。

ロケットに乗り、まず左右前後をみわたした。
ジャコプしてみたり走ってみたりと、まるで

初めて遊園地に来た幼子のように。

ついにロケットが発射された。

なれない身体感覚におもわず笑ってしまふ。

ふと、窓の方に目を向けた。

真っ暗な宇宙に星や惑星は一つの道しるべと
なっている。

この空間で私はただ一人。この景色を見ら
れるのも私だけ。

孤独なのか特別なのか……。いつの間にか
からなくなっていた。

地上で感じる一日と宇宙で感じる一日は違
う。

宇宙空間では一分一秒がゆくりと流れてい
く。まるで夢の中にいるようにゆくりと
ゆくと。

この時間は宇宙飛行士の楽しみと言える。
なぜなら誰にも縛られることのない
「自分の空間」
に入れるためだ。

でも、誰もいないのは寂しい。
ロケットから見える景色が、私の心をなぐさ
めてくれた。

ついに水星にたどり着いた。

だれがかわるわけでもないのに、精一杯冷静
を装っている。

本心を言うところふんで、今にも暴れだして
しまいそうだ。

水星に足がつく。

同時に冷静の糸が切れた。

今、私だけがここにいる。

この景色を私だけが見ている。

寂しさも悲しさもない。

一歩ふみ出し走り出す。

そして叫ぶ。

それよりも大きい声で、見えない星まで届く
声で

「ここにいますよ」